

A world map with a blue background. The landmasses are light green. Concentric circles in shades of blue and orange are centered on the Asian continent, highlighting it as the primary focus.

株式会社日新

2014年3月期第2四半期

決算説明会

アジアを主戦場に積極展開

～ 自動車関連物流を軸に更なる拡大 ～

日新について

ビジネスモデル

事業構成

2014年3月期 第2四半期実績

決算ハイライト

地域別・要因別
営業利益実績

航空・海上
物量実績

2014年3月期 通期計画

通期計画 ハイライト

地域別・要因別
営業利益計画

航空・海上
物量見通し

中期経営計画

第4次中期経営計
画に対する考え方

2つの定量目標

重点施策 進捗状況

アジア戦略

アジア戦略の
全体像

タイ

マレーシア

ベトナム

インド

- 物流事業の約7割は国際物流
- そのうち、アジア発着が約2割を占め、その割合は増加中

- 実績・計画ともにアジアが牽引
- 自動車関連物流を軸に14.3期決算は、前期比増収増益を見込む

- 第5次中期経営計画へのバトンタッチ
- 14.3期発表時に、第5次中期経営計画を発表予定

- アジアをメインターゲットに積極展開をはかる

2014年3月期第2四半期実績

前期比 増収減益

- 海外は自動車関連貨物を中心に順調に推移も、日本は日中関係緊張の影響等が残り本格回復には至らず、増収減益(営業利益)

2014年3月期通期計画

下方修正も 増収増益

- 自動車関連物流の取り込みによる国内外での収益増大に加え、ターミナル事業の回復、経営効率化の効果により、増収増益を見込む

第4次中期経営計画

第4次の 最終年

- 第4次中期経営計画は、当初想定が大きく変わり、数値目標を見直したが、重点施策は継続、東南アジア、メキシコなど成長・新興国での事業基盤を整備
- 第5次中期経営計画では、第4次での基盤を活用し、さらなる拡大を目指していく

日新について

「日々新たに」の“日新スピリット”で
アジア市場を開拓中

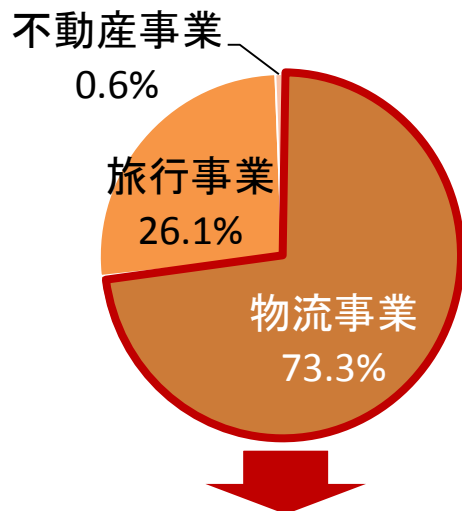


		売上高 構成比(%)	事業内容
物流事業	航空貨物	73.3%	● 海外23カ国のネットワークを活用した安心・高品質なサービスの提供
	海上貨物		● 海上・航空・鉄道を自在に組み合わせた 国際複合一貫輸送サービスの提供
	港湾・倉庫		● 全国の主要港にて大手船社指定のコンテナターミナルの運営 ● 京浜・阪神港を中心に30数カ所の倉庫
	国内		● 共同配送、危険品輸送、鉄道輸送 ● 構内作業
旅行事業		26.1%	● 企業・団体の業務出張サポート ● （業務出張は業界2位の実績）
不動産事業		0.6%	● 商業ビル、商業用地の不動産賃貸事業

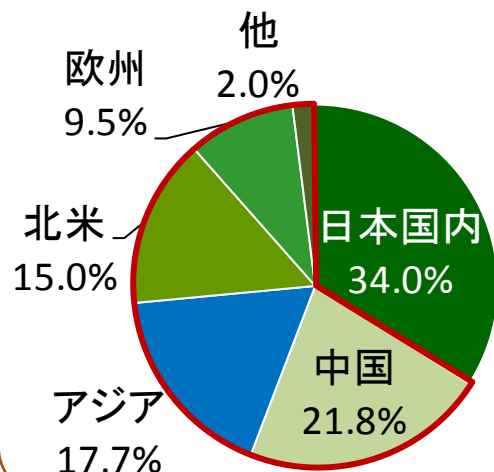
※売上高構成比は、2013年3月期決算数値

事業構成 ～ 物流事業の約7割は国際物流が占める ～

連結売上高(2013年3月期)

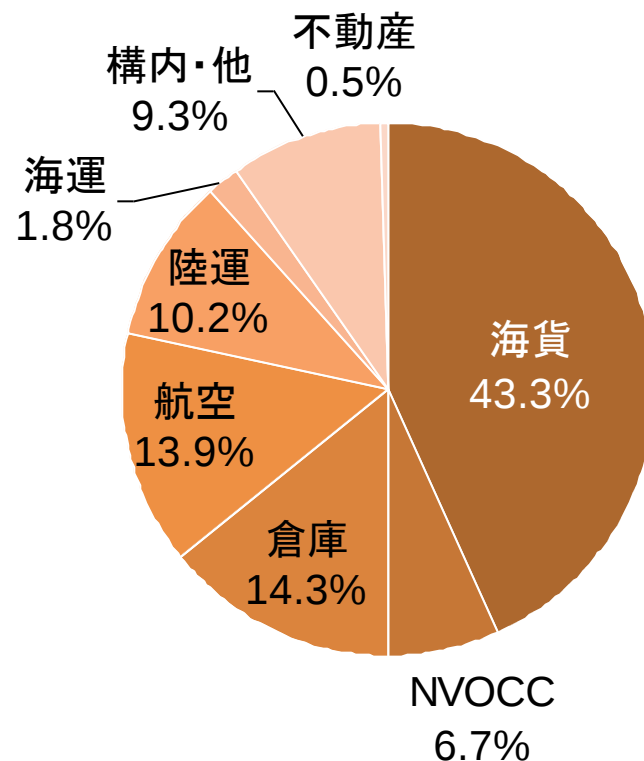


物流事業の内訳 国内・海外(輸出入地域別)



中国	電機、アパレル
アジア	自動車、電機
北米	自動車、電機、生鮮
欧州	電機、自動車

単体売上高(2013年3月期)



出典: 社内データより

2014年3月期第2四半期実績

アジア・中国は引き続き順調に推移、
日本も回復基調



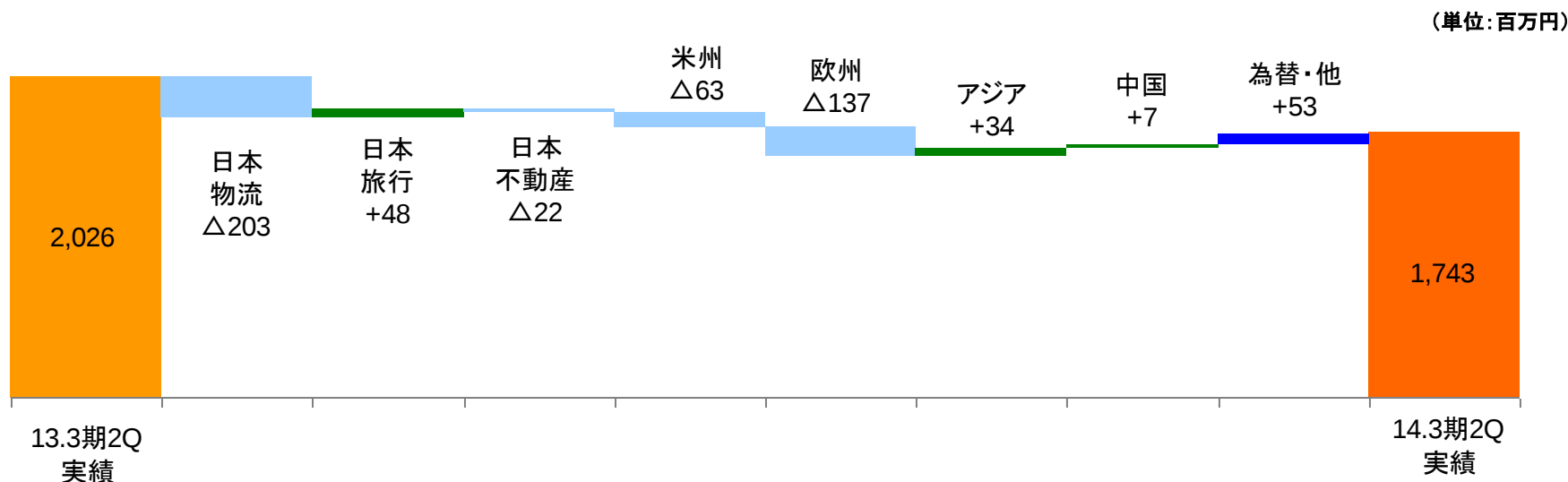
- 海外は自動車関連貨物を中心に順調に推移したものの、日本は日中関係緊張の影響等が残り本格回復には至らず
- 旅行事業の伸長と為替の寄与で売上高は拡大も、営業利益は単体の減収減益が響き減益
- 当期利益は、前年の保有株式減損、環境対策費が減少し増益

(単位:百万円)

	2013年3月期 第2四半期 実績	2014年3月期第2四半期			
		計画	実績	計画比	前期比
売上高	88,070	97,000	93,151	△4.0%	5.8%
営業利益	2,026	2,100	1,743	△17.0%	△14.0%
経常利益	2,124	2,200	1,961	△10.9%	△7.7%
当期利益	862	1,400	1,230	△12.1%	42.7%

※ 計画値は2013年5月8日発表の数値

- アジア、中国は順調に推移も、日本の回復が遅れたほか、欧州が低調



地域	前年同期比	コメント
日本	△15.1%	自動車関連の取扱いと旅行が寄与したものの、ターミナル事業は回復遅れ
北米	△16.8%	自動車関連輸出入・JIT配送は順調も、販管費増が響く
欧州	赤字転換	電機・電子の取扱い低調に加え、自動車関連の取扱いも振るわず
アジア	+35.7%	自動車部品など航空・海上輸出入がともに好調続くも、人件費上昇により伸長鈍化
中国	+27.4%	電子部材の航空輸出入や白物家電の海上輸出が堅調、加えて自動車部品の航空輸出が寄与

※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

第2四半期 期初想定(前年同期比増減)			結果(前年同期比増減)	
①自動車関連				
北米・アジア向け部品輸送の堅調な推移		+60百万円	北米・アジア向け堅調継続	+150百万円
中国向け部品輸送の回復基調			中国向け部品輸送回復基調	
メキシコ向け設備機器の取扱増加			メキシコ設備輸送取扱順調	
②港湾運送・倉庫				
ターミナルでのコンテナ取扱拡大		+50百万円	コンテナ取扱は回復遅れ	△120百万円
ターミナル業務の効率化			業務効率化を推進	
③その他				
海上輸入	製材、合板輸入の堅調な推移		製材、合板輸入堅調継続	△30百万円
	食品、日用品輸入の取扱増加		} 想定比物量伸び悩み	
化学品関連	潤滑油、添加剤の輸出取扱増加			
	化学品生産の回復による取扱増加			
航空輸送	輸入取扱増加 (食品、花卉、アパレル等)		自動車部品の輸入増加	
	スペース仕入れの改善		業務効率化効果で利益率改善	
			+90百万円	

航空貨物

輸出取扱物量 →P12

- 日本は低調も、アジア・中国は自動車関連貨物を中心に順調に推移、北米は生鮮伸び悩み

日本発輸出混載取扱物量 →P13

- 厳しい状況が続いたものの、自動車関連貨物の増加により下げ止まり傾向

日本着輸入取扱件数 →P14

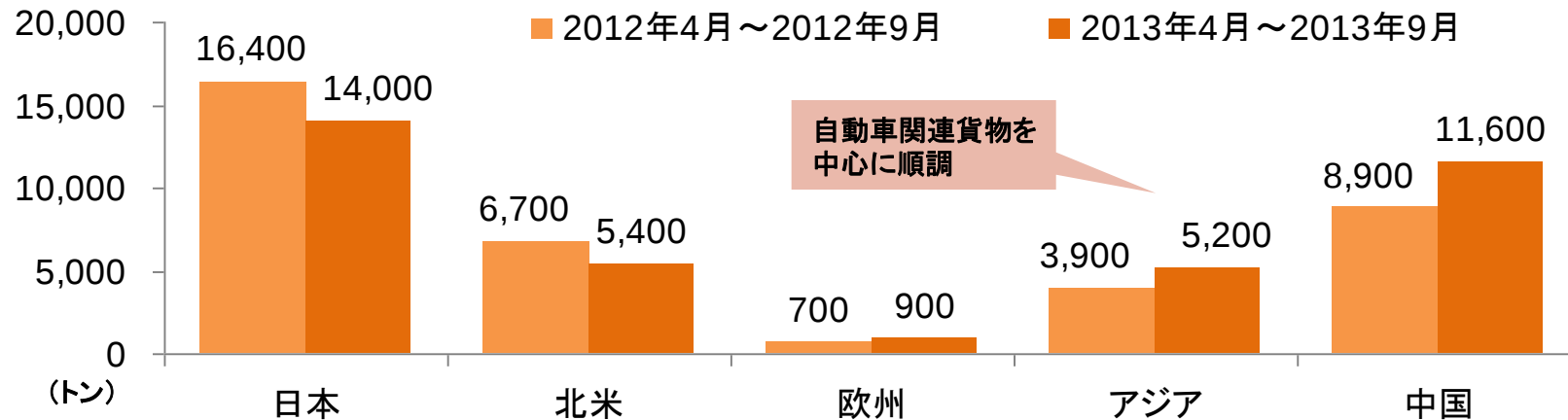
- 自動車部品の取扱いが大幅に増加、欧州発の球根も寄与

海上貨物

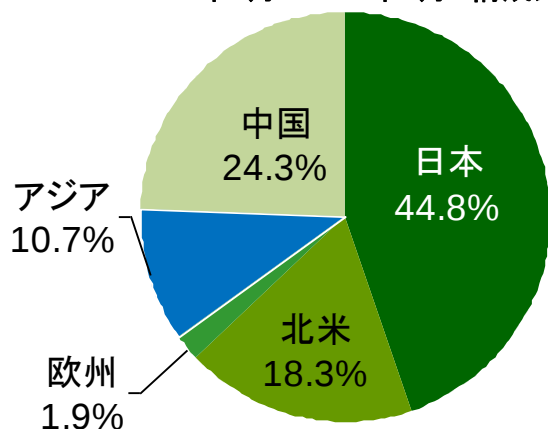
輸出取扱物量 →P15

- 日本発・アジア発は自動車関連が好調に推移、北米発は円安、中国発は日中関係の影響等により減少

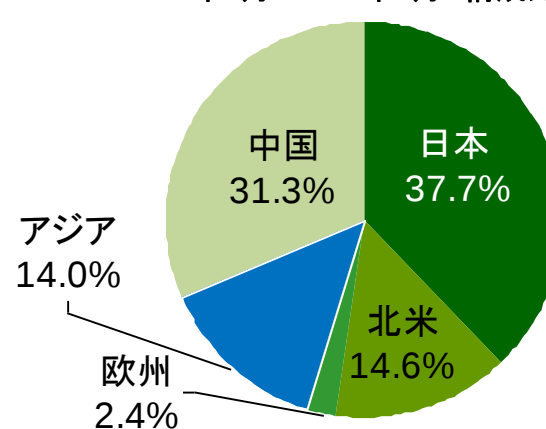
- 日本は低調も、アジア・中国は自動車関連貨物を中心に順調に推移、北米は生鮮伸び悩み



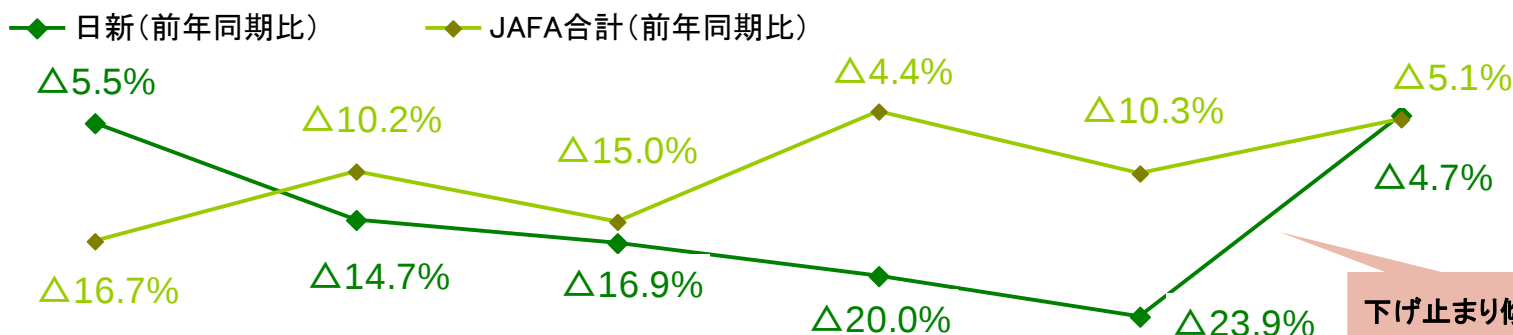
2012年4月～2012年9月 構成比



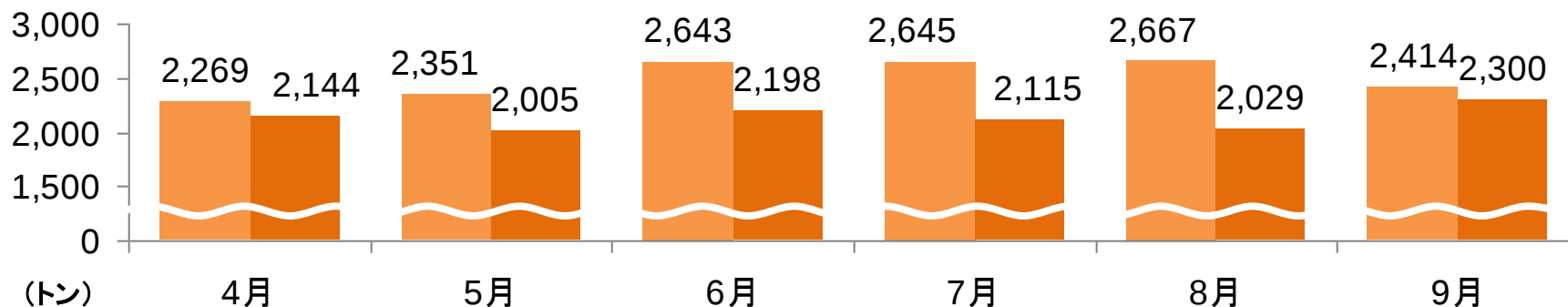
2013年4月～2013年9月 構成比



- 厳しい状況が続いたものの、自動車関連貨物の増加により下げ止まり傾向



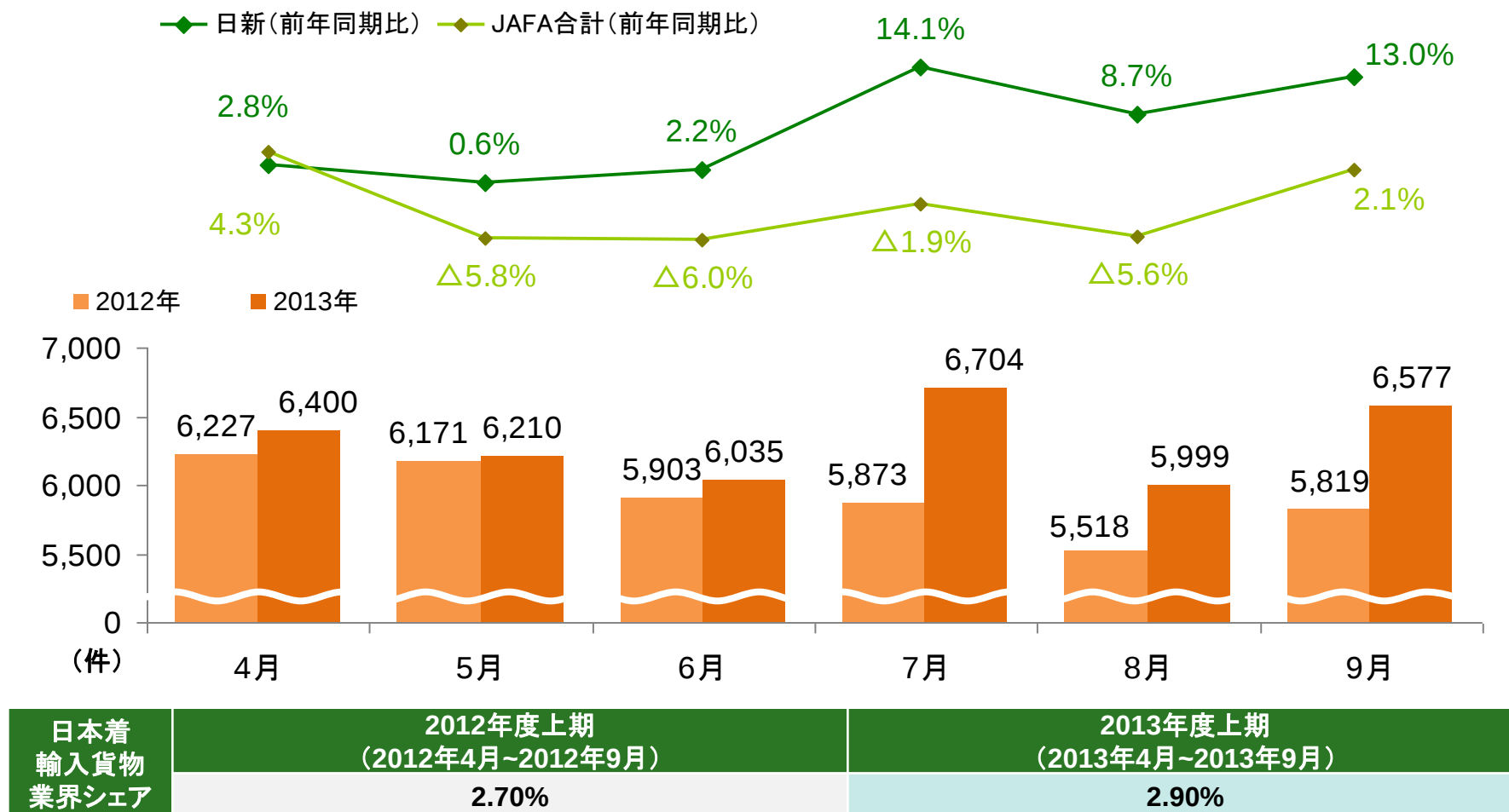
■ 2012年 ■ 2013年



日本発 混載貨物 業界シェア	2012年度上期 (2012年4月~2012年9月)	2013年度上期 (2013年4月~2013年9月)
	3.27%	3.03%

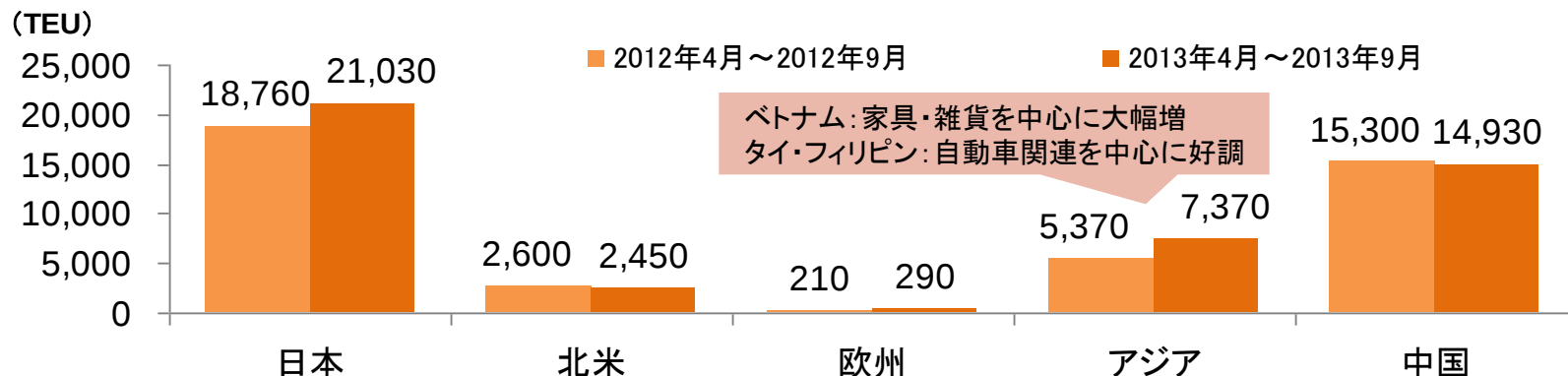
※ 業界シェアは当社推計

● 自動車部品の取扱いが大幅に増加、欧州発の球根も寄与

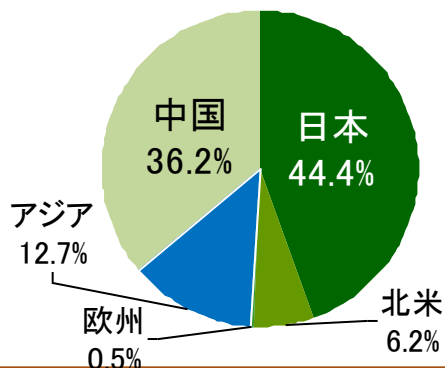


※ 業界シェアは当社推計

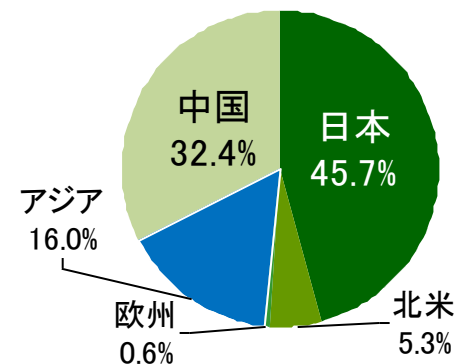
- 日本発・アジア発は自動車関連が好調に推移、北米発は円安、中国発は日中関係の影響等により減少



2012年4月～2012年9月 構成比



2013年4月～2013年9月 構成比



※ TEU(Twenty feet Equivalent Unit): 20フィートコンテナ換算個数

日本発 米国向け 業界シェア	2012年度 (2012年4月～2012年9月)	2013年度 (2013年4月～2013年9月)
	4.93%	5.25%

※ 業界シェアは当社推計

2014年3月期通期計画

自動車関連貨物を軸に増収増益



- 自動車関連貨物の取り込みによる国内外での収益増大に加え、ターミナル事業の回復、経営効率化の効果により、増収増益を見込む
- 中国現地法人(上海高信)は第3四半期から連結化予定

(単位:百万円)

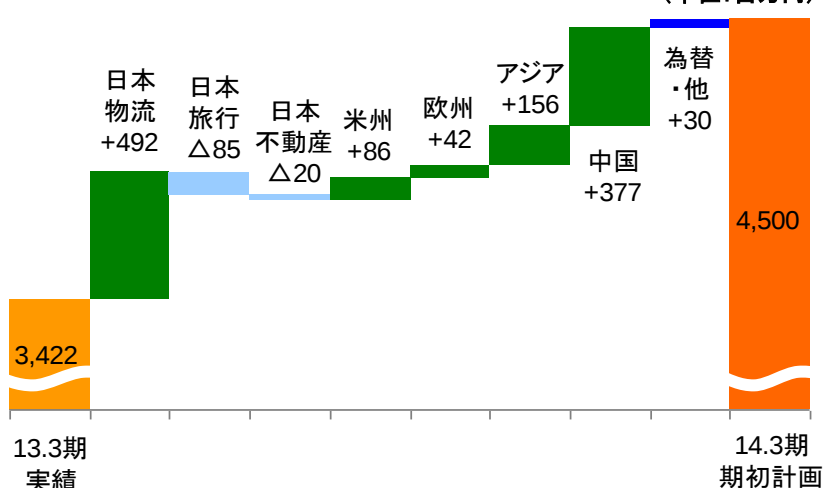
	2013年3月期	2014年3月期			
	実績	期初計画	修正計画	期初計画比(%)	前期比(%)
売上高	175,230	194,000	194,000	—	10.7%
営業利益	3,422	4,500	4,100	△8.9%	19.8%
経常利益	3,558	4,600	4,200	△8.7%	18.0%
当期利益	1,836	2,800	2,500	△10.7%	36.2%

下方修正となるも、前期比増収増益を見込む

- 日本・北米は期初計画通りも、アジアは伸長鈍化、欧州は上期低迷響く、中国は連結遅れ

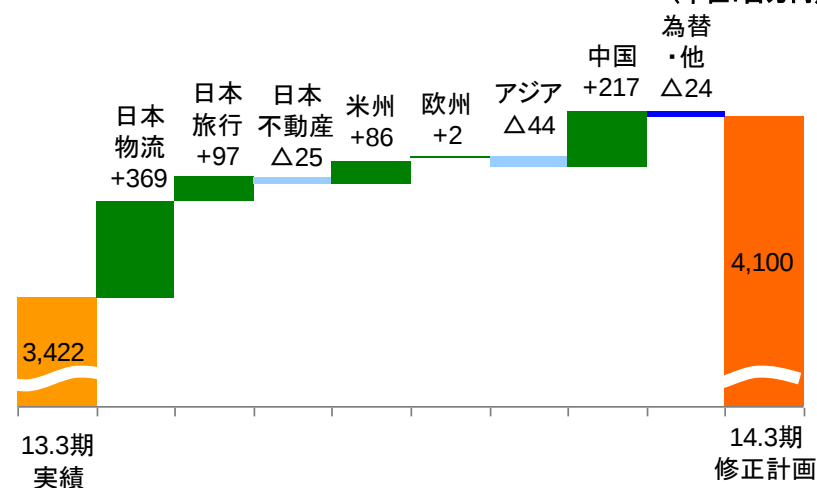
期初計画

(単位:百万円)



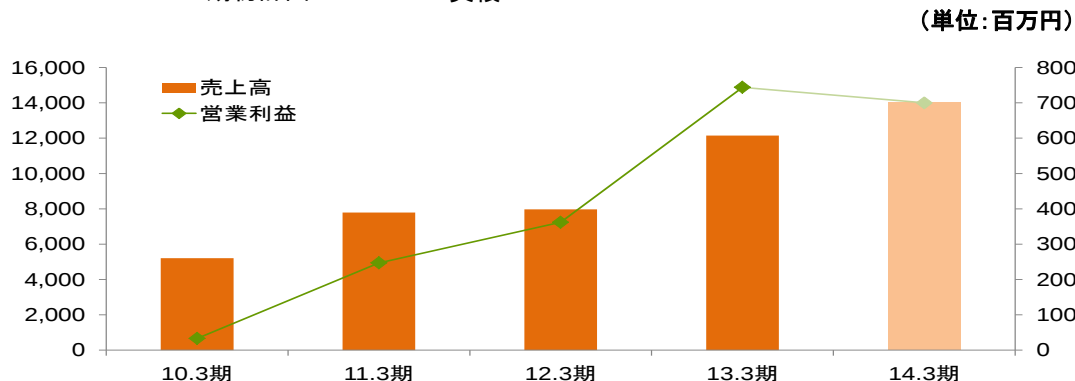
修正計画

(単位:百万円)



アジアにおける業績推移

計画修正はあるものの、
拡大基調を継続、業務
効率化を推進



※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値 ※ 14.3期はUS\$1.00=¥98を想定

2014年3月期 要因別通期計画(単体、営業利益)

期初想定(前年同期比増減)				修正計画(前年同期比増減)			今後の見通し	
①自動車関連		上期計画	下期計画	通期計画	上期実績	下期計画	通期計画	
北米・アジア向け部品輸送の堅調な推移		+60 百万円	+40 百万円	+100 百万円	+150 百万円	+50 百万円	+200 百万円	北米・アジア向け堅調維持
中国向け部品輸送の回復基調								中国向け部品輸送回復
メキシコ向け設備機器の取扱増加								メキシコ設備輸送終了
②港湾運送・倉庫								
ターミナルでのコンテナ取扱拡大		+50 百万円	+100 百万円	+150 百万円	△120 百万円	+190 百万円	+70 百万円	コンテナ取扱回復
ターミナル業務の効率化								業務効率化継続
倉庫での取扱拡大・業務効率化								取扱拡大、業務効率化継続
③その他								
海上 輸入	製材、合板輸入の堅調な推移	+90 百万円	+140 百万円	+230 百万円	△30 百万円	+130 百万円	+100 百万円	製材、合板輸入堅調継続
	食品、日用品輸入の取扱増加							繁忙期に伴い増加
化学品 関連	潤滑油、添加剤の輸出取扱増加							取扱増加基調
	化学品生産回復による取扱増加							回復遅れ
航空 輸送	輸入取扱増加 (食品・花卉・アパレル等)							繁忙期に伴い増加
	スペース仕入れの改善							業務効率化継続

- 自動車関連は順調な取扱拡大
- アジア発は電子部材の増加、生鮮(オクラ)取扱開始、中国発も回復見込み

(単位:トン)

仕出地	2012年4月 ~13年3月	2013年4月~2014年3月					
		期初計画 通期	上期実績	修正計画			
				下期見通し	通期	期初計画 増減	前期比
日本	31,300	32,300	14,000	19,200	33,200	900	6.1%
北米	9,800	10,000	5,400	4,900	10,300	300	5.1%
欧州	1,600	1,700	900	800	1,700	±0	6.3%
アジア	8,900	9,600	5,200	5,300	10,500	900	18.0%
中国	19,700	21,400	11,700	13,900	25,600	4,200	29.9%
合計	71,300	75,000	37,200	44,100	81,300	6,300	14.0%

- 北米発は円安の影響を受けるも、日本発・アジア発は自動車関連を中心に順調見込み

(単位: TEU)

仕出地	2012年4月 ~13年3月	2013年4月~2014年3月					
	実績	期初計画 通期	上期実績	修正計画			
				下期見通し	通期	期初計画 増減	前期比
日本	37,100	39,500	21,000	18,800	39,800	300	7.3%
北米	5,300	5,700	2,500	2,600	5,100	△600	△3.8%
欧州	600	700	300	300	600	△100	—
アジア	11,700	12,000	7,400	5,300	12,700	700	8.5%
中国	29,400	31,300	14,900	14,500	29,400	△1,900	—
合計	84,100	89,200	46,100	41,500	87,600	△1,600	4.2%

中期経営計画

中期経営計画最終年 第5次中期経営計画へのバトンタッチ



第4次中期 経営計画策定時 (11年5月)

基本方針

- 「グローバル・ロジスティクス・サービス・プロバイダー」として、成長・新興国への注力と新たな成長モデルの開発・育成を目指す

定量目標

- 売上高2,100億円、営業利益62億円
- 海外現地法人の売上高拡大1.6倍(260億円→420億円)
- 利益率の向上(2.4%→3.0%) ※目標数値は中期経営計画最終年度(2014.03期末時点)

事業環境の変化 (13年4月)

ポジティブ

- 北米・メキシコ・アジアでの自動車生産拡大
- メーカーのグローバル調達加速
- 円高是正による輸出回復



ネガティブ

- 電機・電子業界先行き不透明
- 中国経済の減速懸念、日中関係緊張

ローリング (13年9月)

基本方針

- 変更なし

定量目標 修正

- 売上高 2,100億円 → 1,940億円、営業利益 62億円 → 41億円
- 海外現地法人の売上高拡大 420億円
- 利益率向上 3.0% → 2.1%

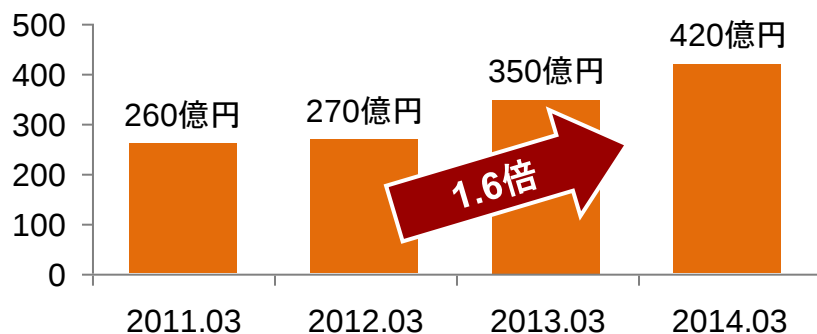
次期中計

第4次で整備の事業基盤を活用し、さらなる拡大を目指す

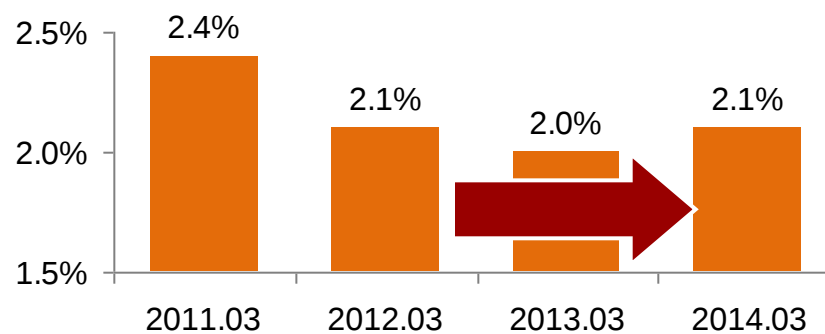
2014年3月期決算発表時に、第5次中期経営計画の全貌をご説明致します

第4次中期経営計画 ～ 定量目標の見直し～

海外現地法人の売上高拡大



利益率の向上



(単位: 百万円)

	2011.03 実績	第4次中期経営計画						
		2012.03		2013.03		2014.03		
		計画	実績	計画	実績	当初計画	修正計画 (2013.5.8)	修正計画 (2013.11.6)
売上高	175,478	178,400	179,059	179,800	175,230	210,000	194,000	194,000
営業利益	4,128	4,000	3,791	4,200	3,422	6,200	4,500	4,100
経常利益	4,357	4,000	4,119	4,300	3,558	6,400	4,600	4,200
当期純利益	1,984	2,000	1,951	2,300	1,836	4,000	2,800	2,500
営業利益率	2.4%	2.2%	2.1%	2.3%	2.0%	3.0%	2.3%	2.1%
ROE	5.4%	5.3%	5.3%	5.2%	4.7%	9.3%	6.4%	6.0%

※ 2012年3月期 会計方針変更、11年3月期以前の売上高は遡及処理後の数値



- CMS導入拡大を進め、2013年4～9月期の支払利息は前年同期比23百万円削減

※ グループ企業の資金を親会社や中核会社が集中管理することにより、効率的な資金運用をすること

2014年3月期第2四半期実績

前期比 増収減益

- 海外は自動車関連貨物を中心に順調に推移したものの、日本は日中関係緊張の影響等が残り本格回復には至らず、増収減益(営業利益)

2014年3月期通期計画

下方修正も 増収増益

- 自動車関連貨物の取り込みによる国内外での収益増大に加え、ターミナル事業の回復、経営効率化の効果により、増収増益を見込む

第4次中期経営計画

第4次の 最終年

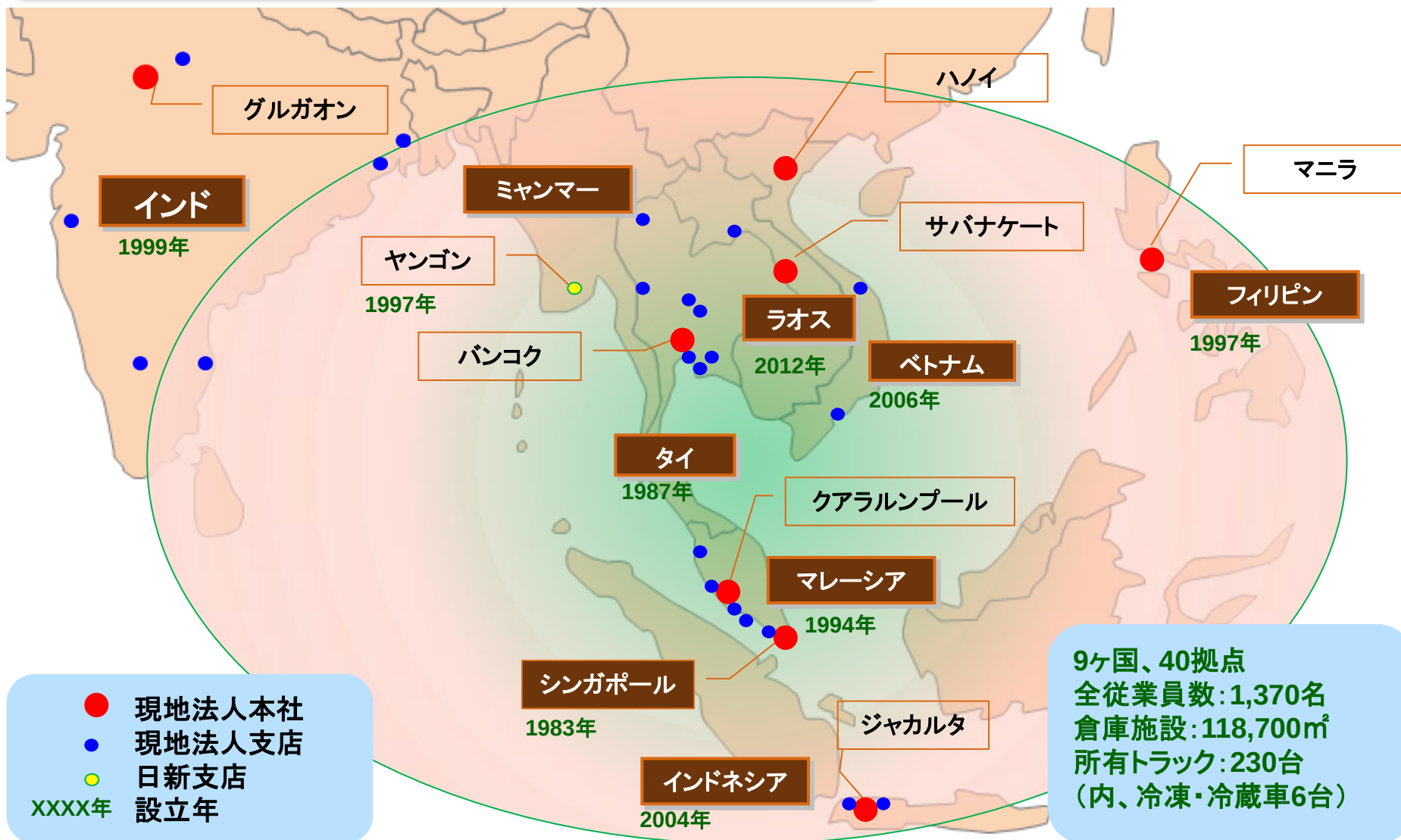
- 第4次中期経営計画は、当初想定が大きく変わり、数値目標を見直したが、重点施策は継続、東南アジア、メキシコなど成長・新興国での事業基盤を整備
- 第5次中期経営計画では、第4次での基盤を活用し、さらなる拡大を目指していく

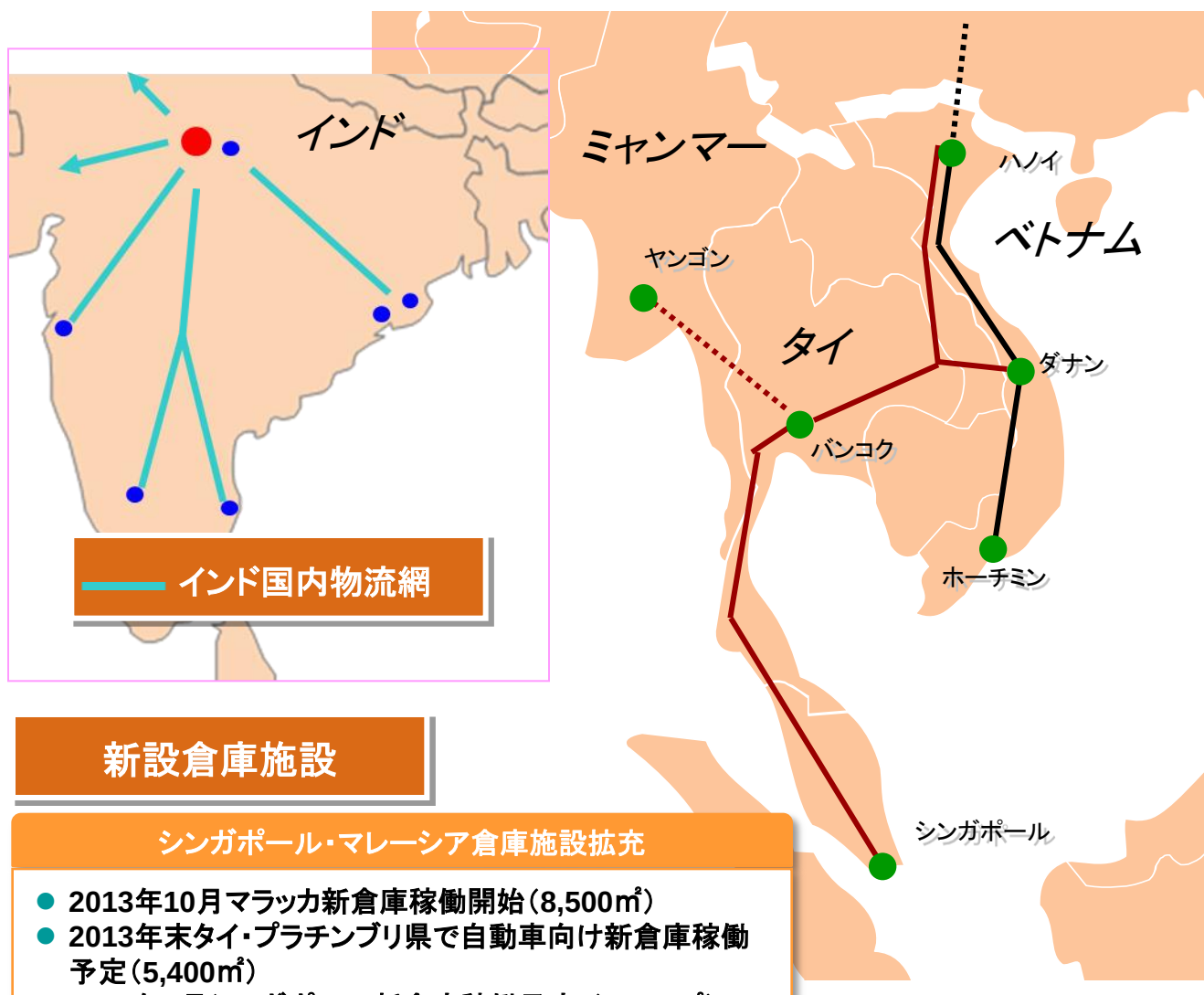
アジア戦略

アジアを主戦場に積極展開
～ 自動車関連物流を軸に更なる拡大 ～



アセアン経済共同体(AEC)発効を見据えた拠点展開





メコン圏物流網

ベトナム

- 2008年カーワゴン(四輪車輸送)運行開始(20両保有、週5往復)
- 2011年ブロクトレイン運行開始(20両編成、週3往復)

タイ

- 2012年4月低温輸送サービスを提供開始

タイ・バンコク～ラオス・サバナ
ケート～ベトナム・ハノイ

- 2012年3月メコン・ランド・ブリッジサービスを提供開始
- 2013年5月定期混載便開始

マレー半島物流網

シンガポール～マレーシア～
タイ・バンコク

- 1998年よりクロスボーダー輸送サービスを提供中

新設倉庫施設

シンガポール・マレーシア倉庫施設拡充

- 2013年10月マラッカ新倉庫稼働開始(8,500㎡)
- 2013年末タイ・プラチンブリ県で自動車向け新倉庫稼働予定(5,400㎡)
- 2014年1月シンガポール新倉庫稼働予定(5,800㎡)

	項目		タイ	マレーシア	ベトナム	インド
目標	1～2年間の取組		冷凍・冷蔵輸配送 食品輸出入	自動車物流倉庫 (DCC業務)	冷凍鉄道輸送 中部地区展開	フォワーディング 強化
	中長期目標		自動車物流向け 拠点拡充	HARAL対応	中国・メコン圏 物流拡大	完成車鉄道輸送
市場	特徴	産業	自動車生産基地 内需拡大	電機産業 自動車産業	軽工業 電機・自動車部品	自動車・化学産業 内需から輸出
		物流	域内物流の中心 域外物流拡大	タイ、シンガポール 物流	南北間輸送 東西回廊の起点	広範な国内輸送 対アセアン拡大
	関連		自動車 生産分業拠点			
			アセアン経済共同体(AEC)			
			アセアン + ベンガル湾経済圏			
自社	現在の拠点数		11拠点	9拠点	3拠点	7拠点
	日本人駐在員数		10名	6名	5名	6名
	現地従業員数		480名	160名	130名	370名
	競争優位性		クロスボーダー輸送		南北鉄道輸送	全国トラック 輸送網
			冷凍輸送	DCC倉庫	MLB輸送	
	主力取扱品		自動車部品、 冷凍食品	電機電子部品 自動車部品	四輪 & 二輪 完成車	二輪完成車 化学品